

《広島工業大学・第5回「宮島・土曜講座」：講話概要》 日時：平成22年7月17日(土) (参加者：30名)

講師・コメンテーター：菊川照正氏（厳島生活文化研究所・代表、広工大・「地域・集落計画研究センター」：顧問）

報告者：佐々木香菜子さん（広島工業大学・大学院生、同大・同研究センター：研究補助者）

【報告題目】 宮島門前町の町家・家並み、その順応性・規範性

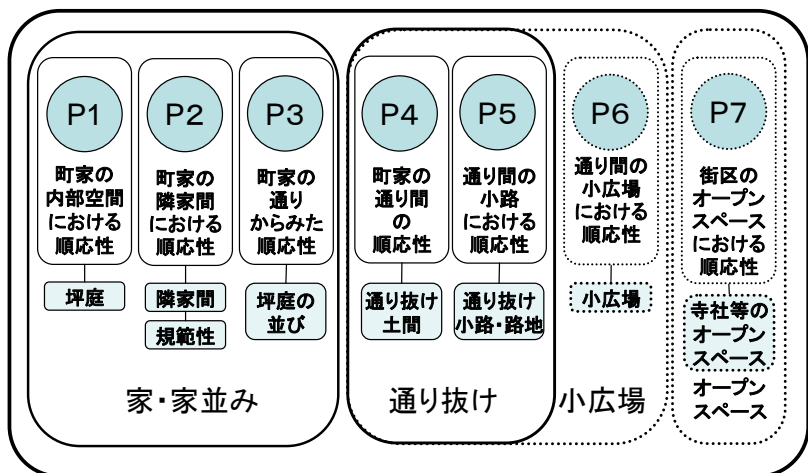
—宮島町家の実測調査結果報告、その理解・思い—

【報告：佐々木香菜子さん】

■第1回「宮島・土曜講座」にて、「宮島門前町の町家・家並み、その順応性（含、パネル説明）」と題して報告した内容をベースに、この第5回での報告は、①順応性に加えて規範性に関わる部分の内容について詳述する。そして更に、②宮島町家の実測調査結果報告から、その理解・思いにまで解釈を広げる。という新たに2つの内容を追加し、研究を進め、全体的に纏め直した「新・枠組」による報告であった。

■以下、当日の報告内容の内、特徴的な内容について、その概要を、記録しておきたい。

- ①町家の内部空間における順応性（P1）：町家の内部空間、特に間取り・土間・坪庭等に関する順応性。
- ②町家の隣家間における順応性（P2）：町家の隣家間、特に敷地と家、隣家との接近性、意識（造る・住む）、等に関する順応性。生活面では、特に隣家との関係において、規範性が注目される。
- ③町家の通りからみた順応性（P3）：町家の通りからみた、特に間取り、その類型、坪庭・2階位置等に関する順応性。
- ④町家の通り間（土間）の順応性（P4）：通り抜け土間における順応性。
- ⑤通り間の小路における順応性（P5）：通り抜け小路・路地における順応性。
- ⑥通り間の小広場における順応性（P6）：小広場における順応性。
- ⑦街区のオープンスペースにおける順応性（P7）：寺社等のオープンスペースにおける順応性。



宮島の種々の自然的・地域的特性から、以上の順応性の枠組みが成立することが考えられる。宮島の道（通り、等）や水路、敷地・家は、自然に沿って、土地に逆らわず造られ、その上で利便性を追求しているものと云える。島嶼部の沿岸集落としての宮島の地域特性に対する、町家・家並み・町並みの在り方の裏面に、順応性という概念が存在していることが考えられる。今後、更なる客観化・吟味、等が必要と言えよう。

図 町家とその近隣等がもっている順応性の枠組み

【コメンテーター：菊川照正氏】

- 佐々木さんの報告内容から考えて、次の2点を指摘したい。
- 町家の一階の壁だけでも、本物の土壁を使用すると、通り抜ける風と呼応して、その土壁に含まれた水分が風に含まれ、そうした涼しい風が発生し、私共はそれを肌を受けることになります。このように、想い以上の環境調整機能、言い換えれば、佐々木さんの言う順応性機能が発揮されるものと考えます。本物指向の大事さを指摘します。
- 宮島集落は、縄文期の堅穴式住宅が群化したようなものであると考えています。土間の涼しさ・湿気、微妙な風のそよぎ等から、あたかも、堅穴式住宅のように半地下化した住宅、それらが群れをなしている状態、それが宮島門前町と云う集落のように想定します。大きくみると、すり鉢上の本集落にある、この様な特徴・形式も、新しい解釈として、ここに指摘しておきます。ついこの前まで、こうしたものを保持してきた集落と考えます。



第5回講座での佐々木さんの報告、それに対する菊川氏のコメント風景

《以上》（文責：森保）